平成27年度第２回大阪府障がい者自立支援協議会地域支援推進部会

精神障がい者地域移行推進ワーキンググループ議事概要

日　時：平成27年12月7日（月）午後3時～

場　所：大阪府公館　大サロン

出席委員：北野委員、河野委員、辻井委員（ＷＧ長）、正岡委員、山口委員〔五十音順〕

オブザーバー：森脇 守口保健所長兼寝屋川保健所長

【議題１】ピアサポーター活動状況等ヒアリング

* 泉南フレンド、オアシスのピアサポーターから活動報告

【議題２】検証項目の現状と課題について

* 事務局説明
* 委員意見等
* 新たに長期入院精神障がい者の地域移行推進のスキームを策定するのであれば、目的・役割・やらなければならないことなどを明確化する必要がある。
* 相談支援事業所だけで取り組むのではなく、市町村自立支援協議会の活動に位置づけて取り組むことによって、地域移行に継続して取り組むという考え方が市町村に定着してきていると感じる。
* 長期入院精神障がい者の地域移行推進の業務について、府は平成26年度までは市町村へ完全に移行することを目標としていたため、既にその予定・体制で進めてきた市町村もあるので、慎重に議論していく必要がある。
* 入院期間、医療保護入院か任意入院かという入院形態も個別の状況の一つであるため区別せず、本人の状況に応じた地域移行として捉えていけばよいのではないか。
* 地域体制整備コーディネーターは専任化させることが求められるのではないか。
* 長期入院患者本人が地域移行支援を受けたいというところまでの働きかけであるコーディネーター機能をどのように担っていくかが、府・市町村の役割分担の大きな論点。
* 市町村単位の基幹相談支援センターに地域体制整備コーディネーターを配置するのではなく、例えば二次医療圏くらいの規模で配置し活動できるようにすることも必要ではないか。
* 入院患者にとって院内交流会等の開催が刺激になっているのであれば、やらないよりはいいが、長年実施している中で目的や内容が形骸化してきている感じもあり、地域移行の対象者として挙がってこない要因の一つではないか。
* 支援者の考える社会資源と、ピアサポーターが考える社会資源に違いがあることなどもあり、自立支援協議会の部会等にピアサポーターの意見を取り入れることは有効。
* ピアサポーターの養成事業を考えると、導入時期の初任者研修と現任者のフォローアップは一定必要ではないか。
* 従来から日常的にサロンで行われている地域での支えとなる純粋なピア活動と、今後研修等の一定条件をクリアした方が行うピア活動は、棲み分けが必要。

【その他】

* 国・府の平成28年度予算編成の状況等について事務局から報告
* 検討スケジュールの変更について事務局から提案　⇒了  
  〔当初〕年度内に報告書とりまとめ⇒〔変更後〕平成28年度の早い時期
* 次回開催日は日程調整の上、後日連絡